参考資料4

マンガでわかる！国土管理

～カンタとリコの訪問記～

北海道長沼町編

国土交通省国土政策局
総合計画課国土管理企画室

～主人公の紹介～

・カンタのアツすぎる思いに共感し、そのあとを追いかけ始めたピュアな少女

・知識はまだ少ないが、時折鋭い質問が飛び出すことも

・日本の美しい国土を未来に残していきたいという思いを抱く、大志ある小年。

・全国各地の事例を自分で勉強していてとても詳しい。

・マンガの登場人物と既に知り合いであることも。

リコ　　カンタ

見てみて！鶴がいるよ。かわいい

あの鶴はタンチョウと言ってね。鶴と言ったら北海道の中でも釧路湿原などをイメージすると思うけど、最近はここ長沼町でも見かけることが出来るんだ

※ 実際のタンチョウとは模様が違います。

へえ。鶴がやってくるなんて、素敵な町だね。

実は、明治時代に長沼町には、多くのタンチョウが生息していたという記録が残っている。その後、長沼町からは一度姿を消していたんだけど、最近になってまた復活しはじめたんだよ。

どうして一度姿を消したのかな。

今日は特別に、人間の言葉が分かるタンチョウの「ツルヒコ君」に来てもらいました。色々と話を聞いてみようか。

人間関係広い！
というか、今回人ですらない

※人間の言葉がわかる
ツルは、実際にはいません！

こんにちは！

カンタ君、リコちゃん、こんにちは。分からないことがあれば何でも聞いてほしいツル。

どうして、一時はこのあたりに来なくなってしまったのですか？

そもそも、悲しいことに、明治時代以降、僕ら、乱獲されて数がとても減ってしまったんだツル。それから、僕らは巣を作る場所として湿原が大好き。でも、開拓で湿原が減ってしまったツル。

キリッ！

ワーイ湿原だー

巣が作れる～♪

巣が作れなーい。

別を探すしかないー

どうして再び長沼に戻ってこようと思ったんですか。なぜ一度長沼町に来るのをやめてしまったんですか？

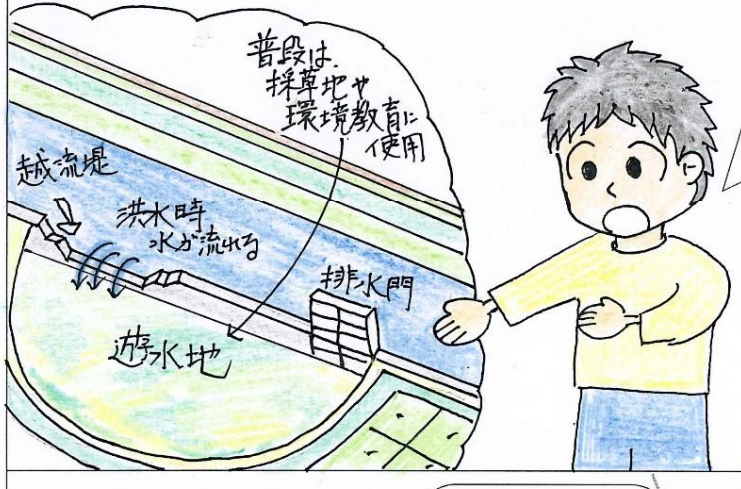
住みやすそうな場所を見つけたんだツル。

ここは僕に言わせて

舞鶴遊水地のことですね。

そうだツル

ここは僕が説明するよ。遊水地とは、洪水の被害を防ぐために、大雨などで川の水位が上昇したときに水を流して受け止めるための土地なんだ。この辺りには、たくさんの遊水地が整備されているんだよ。



逆に言えば、これまで洪水の被害が多かったということね。

そのとおり。こうして様々な遊水地が整備されてきた中で、舞鶴遊水地はかつての長沼町の湿原に近いという特徴を持っていたんだ。

舞鶴遊水地が工事中の時に一度ツルが来て、その頃からタンチョウを長沼に呼び戻そうという声が出始めたんですよね。

そうだツル。僕たちタンチョウにとってより適した環境になるように、舞鶴遊水地を整備していこうと呼びかける人たちが現れたんだツル。

遊水地としての本来の役割だけじゃもったいないってことね。

もともと舞鶴遊水地は、農業景観を創出したり、環境教育・グリーンツーリズムなどに活用していくことが計画されていたんだよ。それに加え、タンチョウをシンボルとしたまちづくりにも取り組んでいこうという気運が高まっていったんだ。

けれど、遊水地としての本来の機能が損なわれるんじゃないかとか、僕たちが農作物を襲うんじゃないかとか、反対の声も出たんだツル。

その意見も理解できるわ。遊水地の設置が農家のためにならないのであれば、本末転倒な気がするもの。

そこで、長沼町タンチョウとの共生検討会議が設置されて、タンチョウとの共生によるまちづくりの可能性が検討されたんだ。

検討の結果はどうだったのかな。
期待されること、懸念されることを整理し、対応の方向性を報告にまとめたんだよ。
タンチョウとの共生によるまちづくりは可能との結論を出していただいたんだツル。
具体的な取組はタンチョウも住めるまちづくり協議会が設置されて検討が進められているよ。
僕たちが住みやすい環境作りのための具体的な検討が始まったんだツル。
環境教育や住民参加の促進、タンチョウをシンボルとした商品開発など、タンチョウとの共生によるまちづくりに向けた具体的な検討も進んでいるよ
ホワイトボードを使って説明
活動主体
地元住民代表
学識経験者
関係行政機関
ok!
これは合意形成できた！実行しよう。
前提条件として、多様な主体が集まって議論を深め、合意形成が得られたことから実行していくことも報告にまとめたんだ。
色々な意見の人たちがいる中で、こうした前提条件を約束しておくことはとても大事な気がするわ。
「ほんち・いきなりホワイトボードページが余ったんじゃ…」
これからのまちづくりが楽しみだわ。ぜひまた遊びに来たいです！
待ってるツル。そのときはたくさんの仲間を紹介できたら嬉しいツル。

人（主体）の視点

真に持続可能な土地利用を実現するためには、合意されている状態が継続するための工夫が不可欠であり、例えば、当初の合意づくりの前提となった客観的データに基づく実態や課題を関係者間で常に共有できる体制を構築することが有効です。

北海道長沼町では、長沼町タンチョウとの共生検討会議を設置し、まちづくりで期待されること、懸念されることの抽出と評価、課題への対応の方向性について整理し、合意形成の得られたものから実行すること等を報告としてとりまとめました。

土地の視点

持続可能な国土の利用・管理のため、外部不経済の抑制や土地の使い方の質の向上に留意しつつ、できるだけ具体的な土地の使い方を検討することが重要です。

北海道長沼町では、新たに整備された遊水地を活用し、治水機能維持や周辺農家への影響等に留意した上で、タンチョウが飛来するような生息環境の構築や社会ルールの定着、環境教育の実施等を通じた「タンチョウも住めるまちづくり」を進めています。

様々な視点からの効果を意識し、総合的に最も適した土地の使い方を選択することが重要です。

北海道長沼町では、遊水地について、流域の治水機能の向上という本来の目的だけではなく、タンチョウの生息環境として整備することにより、自然との共生や地域づくり等に活用しています。